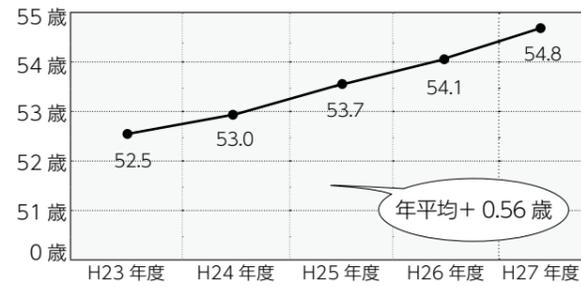


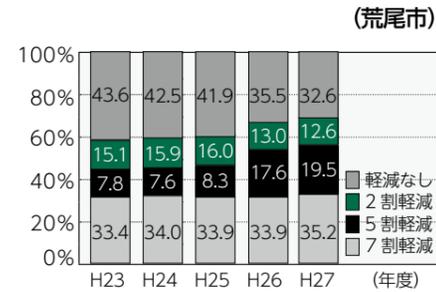


●グラフ①国保加入者の平均年齢の推移（荒尾市）



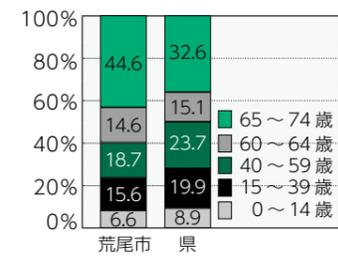
高齢化の問題
 国保は、国民皆保険制度の性格上、避けられない3つの問題があります。
 グラフ①は加入者の平均年齢の推移を表しています。グラフ②は年齢構成の本市と県平均との比較です。グラフ③の本市は65歳以上の前期高齢者の割合が多い、いびつな構成になっていきます。これらのことから、本市の国保は急速に高齢化が進んでいることが分かります。

●グラフ③国保税軽減世帯数の推移（荒尾市）



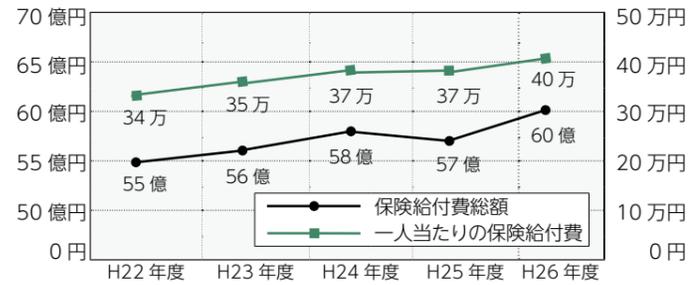
低所得化の問題
 グラフ③は本市の国保税軽減世帯割合の推移を表したものです。対象世帯の割合が年々多くなっています。低所得のため、平成27年度に本市で軽減措置を受けた世帯は、国保加入者の67%ほどを占めました。（参考…平成25年度の県平均は52%）

●グラフ②荒尾市（H27年度）と県（H25年度）の年齢構成比割合



※数値は四捨五入しています。

●グラフ④国保の市全体と一人当たりの保険給付費（荒尾市）



医療の高度化・高額化
 グラフ④は保険給付費総額と、一人当たりの保険給付費です。健康リスクが高い65歳以上の層が多く、医療の進歩もあり、右肩上がりとなっています。また、本市の国保では医療費の約54%が、がん、虚血性心疾患や内分泌・代謝疾患などの生活習慣病となっています。生活習慣病を防ぐための対策を急がなければなりません。

国保の今、そして未来のために 前編

荒尾市国民健康保険財政健全化計画（平成27～29年度）

国民健康保険（国保）の現状

治療を受けるとき、治療を受ける人が全ての費用を負担するのは大変なことです。そこで、加入者でお金を出し合い、支え合うのが保険制度です。私たちはさまざまな保険制度のどれかに加入することになります。

75歳未満の個人事業者や退職者などが加入する国保は市町村が運営しています。加入者（被保険者）の高齢化や治療に要する費用の高額化、景気の低迷による低所得化などにより、厳しい運営が続いています。

平成26年度の荒尾市国民健康保険特別会計の決算は1億7477万1千円の赤字となり、平成27年度も同

じように厳しい決算が予想されます。このような状況を踏まえ、ことし3月、国保の現状と取り組むべき目標を定めた「荒尾市国民健康保険財政健全化計画」を策定しました。

今月号では「これまでの経緯と現状」について説明します。

荒尾市国民健康保険財政健全化計画

国保財政の収支の不均衡を改善し、将来にわたり市民の皆さんが安心して医療を受けられる環境を整備するために策定しました。

今までに国保税率の改定、税の収納率向上対策、医療費適正化対策、特定健診受診率向上策などを実施してきました。しかし、本市の

健康な日々をこれからも

国民健康保険制度は、国民皆保険の礎として重要な役割を果たしています。しかし、このまま医療費が増え続けてしまうと、制度を存続させるのが難しくなってしまいます。

ずっと健康で過ごすためには生活習慣病を防ぐことが大切です。まずは健康診断を受けて、病気を早期発見・早期治療しませんか。健康診断については次ページをご覧ください。

一人一人が健康に気を使うことで、自分自身が元気でいられるのはもちろん、国保という制度を存続させ、若い世代も安心して毎日を過ごせるようになります。来月号では「健全化への取り組みとその効果」について説明します。

健康生活課 国保年金係 63・1327